

海外臨床実習報告書

2026 年 6 月 19 日

氏名 福井優珠

1 実習施設名

St. Josef-Hospital (Ruhr-Universität Bochum)

2 実習期間

2026/04/06 - 2026/05/29

3 実習施設の概要

ドイツの Bochum に位置する St. Josef-Hospital Bochum は、1909 年に設立された歴史ある病院であり、Ruhr-Universität Bochum の医学部の主要な大学病院の一つです。地域医療を担う基幹病院としての役割に加え、教育・研究機関としても重要な機能を果たしています。病床数は約 650 床で、内科、外科、循環器内科、神経内科、整形外科・外傷外科、麻酔科・集中治療科、小児科、皮膚科、放射線科など幅広い診療科を有しています。高度急性期医療から専門医療まで対応し、地域住民に質の高い医療を提供しています。

同院では、診療・教育・研究を一体化した医療を実践しており、多くの医学生や研修医が臨床実習や研修を行っています。また、循環器疾患、神経疾患、腫瘍学などの分野を中心に研究活動が活発で、国内外の研究機関との共同研究も進められています。臨床現場で得られた知見を研究へ還元し、その成果を患者診療へ活用することで、医療の質の向上に取り組んでいます。

さらに、多職種が連携するチーム医療を重視しており、患者中心の医療を実践するとともに、次世代の医療人材育成にも力を注いでいます。高度な医療技術と豊富な教育資源を活かし、地域社会への貢献と医学の発展を目指している医療機関です。

4 Ruhr-Universität Bochum を志望した理由

これまでのドイツとの関わりを通じて、同国の医療や文化に強い関心を抱くようになったためです。2023 年には模擬国連の活動を通じてドイツを訪問する機会をいただき、現地の歴史や文化、多様な価値観に触れました。その際、ドイツ社会における論理的な制度運営や、多様な背景を持つ人々が共生する国際的な環境に魅力を感じるとともに、将来的にさらに深くドイツについて学びたいと考えるようになりました。

また、奈良県立医科大学には毎年多くのドイツ人医学生が留学に訪れており、交流を重ねる中でドイツの医学教育や医療制度について話を聞く機会がありました。彼らとの交流を通じて、日本とは異なる教育環境や医療現場のあり方に興味を持つようになり、実際に現地で学びたいという思いが強くなりました。

さらに、私は 2023 年からドイツ語学習を継続しており、語学力の向上に努めてきました。これまで学んできたドイツ語を日常生活だけでなく、実際の医療現場においてどのように活用できるのかを経験したいと考えました。患者や医療従事者とのコミュニケーションを

通じて、語学力だけでなく異文化理解を深めることができると期待しました。

加えて、ドイツは世界的にも高い水準の医療を提供しており、日本とは異なる医療制度や医学教育の仕組みを有しています。特に Ruhr-Universität Bochum は複数の関連病院によって大学病院機能を担う特徴的な体制を持っており、そのような環境で臨床実習を行うことで、日本との共通点や相違点を学び、医療に対する視野を広げたいと考えました。

5 実習に向けての準備

実習に向けては、まずカンボジアでの海外臨床実習に引き続き、医療英語の学習に取り組みました。ドイツでは、患者がドイツ語を話せない場合など、英語が共通言語として用いられる場面もあるため、医学用語や診療に関連する表現を中心に学習を継続しました。

一方で、診察やカルテ記載、医療者間のコミュニケーションの多くはドイツ語で行われるため、ドイツ語学習にも力を入れました。特に、実際の医療現場での会話を理解し、患者や医療従事者とのコミュニケーションを円滑に行うことを目標として、リスニングとスピーキングを中心に学習を進めました。日常会話だけでなく、診察場面で使用される表現や医療関連語彙についても学習し、実習に備えました。

さらに、実習では小児科および皮膚科をローテートする予定であったため、それぞれの診療科で頻繁に遭遇する疾患や診察の流れについて復習を行いました。加えて、救急医療および感染症診療はあらゆる診療科に共通して求められる重要な領域であることから、救急患者の初期対応や感染症の診断・治療に関する基礎知識についても学習しました。基本的な知識を整理したうえで実習に臨むことで、現地での学びをより深められるよう努めました。

加えて、ドイツの医療制度や医学教育制度、医師のキャリアパスについても事前に調査しました。日本との違いを理解したうえで実習に参加することで、単に診療内容を学ぶだけでなく、医療を取り巻く社会的背景や制度についても理解を深めたいと考えました。

6 実習内容

私は小児科および皮膚科をローテートさせていただきました。

小児科では病棟および救急外来を見学しました。ドイツの医療制度では、Praxis（かかりつけ医）から紹介された患者が基幹病院に集まるため、比較的希少な症例を経験する機会が多く、Huntington 病、超短腸症候群、ミトコンドリア脳筋症などを学ぶことができました。私は主に消化器グループに所属しており、内視鏡検査の見学機会が多く、好酸球性食道炎が鑑別に挙がる頻度の高さや、実際の診断例の多さが印象的でした。これに関連して、内視鏡所見および 24 時間食道 pH モニタリングを含めた診断について理解を深めることができました。超短腸症候群の症例では PICC 管理や炎症時の対応についても学びました。さらに、小児医療では新生児から学童期まで発達段階に応じて疾患像が異なることが興味深く、印象に残りました。滞在中には「糖尿病週間」と呼ばれるプログラムも実施されており、1 型糖尿病の患児が 1 週間入院し、アクティビティを通じて疾患と向き合う取り組みは非常に新鮮でした。

小児救急では、Praxis 閉院後の夜間や週末に患者数が増加し、市中病院に近い症例も多く経験できました。また、小児においても薬物中毒（特に大麻など）が一定数みられる点は日本との違いとして印象的でした。さらに、ドイツの医学生とともに呼吸器疾患患者の初期評価

を行う機会もあり、実践的な学びとなりました。

皮膚科では、採血および静脈路確保を日常的に経験し、毎日最低 5 例程度を実施することで基本手技の習熟につながりました。また、当直勤務も経験し、病棟と救急を同時に担当する体制のもとで初期対応や判断過程を学ぶことができました。経験した疾患としては、基底細胞癌、Bowen 病、皮膚 T 細胞リンパ腫、化膿性汗腺炎などが挙げられます。処置としては予診、皮膚生検、搔把術なども行わせていただきました。

さらに、視診やダーモスコピーによる評価に基づく診断過程や、皮膚生検の適応判断など、鑑別診断を組み立てる思考プロセスを学びました。実際に患者の皮疹について気になる所見をダーモスコピーで確認し、悪性の可能性について指導医とともに検討する機会もありました。外用療法から外科的切除まで、疾患ごとに治療選択が大きく異なる点を実践的に経験し、慢性疾患における長期的な管理の重要性についても理解を深めました。

小児科・皮膚科の両科を通じて、ドイツでは医学生の実験参加度が日本より高く、採血や静脈路確保、予診、救急での初期対応、皮膚科での処置などを主体的に行っている点が非常に印象的でした。

7 生活環境

滞在中は寮などの提供はなく、自身で住居を手配する必要がありました。そのため早めの確保が推奨されます。私は Bochum 中心部の Airbnb に滞在しました。病院へのアクセスや生活の利便性の観点から、病院周辺または中央駅周辺の居住が望ましいと感じました。

移動手段としては電車が非常に便利であり、Düsseldorf や Köln などの大都市へも約 45 分から 1 時間半程度でアクセス可能でした。Deutschlandticket を利用することで、電車やバスを含む公共交通機関が広範囲で乗り放題となり、日常移動には非常に有用でした。一方で、ICE や IC といった都市間高速列車は対象外であり、料金の変動するため、利用する場合は早めの予約が必要です。ただし、ドイツでは鉄道の遅延や運休も比較的多く、スケジュールには余裕を持ち柔軟に対応することが非常に重要です。また、市街地では e-scooter（電動キックボード）や自転車のシェアリングサービスも普及しており、公共交通機関ではアクセスしづらい場所への移動や短距離移動の手段として非常に便利でした。

食事については、病院から配布されるカードにより食堂で朝食または昼食が無料で提供されていました。日常的には近隣のスーパーマーケットを利用することが多く、食費を含めた生活費を比較的安価に抑えることができました。外食では、Bochum を含む Ruhrgebiet 地域の名物である Currywurst や、ドイツ国内で広く親しまれている Döner Kebab を食べる機会が多く、比較的安価でボリュームもあるため、学生にとって利用しやすい食事でした。

気候については、4 月は天候が変わりやすく、日本の秋程度の季節感で、長袖での生活が中心でした。5 月中旬まではまだ春らしい暖かさは少なく、5 月末頃にかけて急に夏のような気温となり、半袖でも過ごせるようになりました。

治安については比較的安定しているものの、駅や市場、観光地など人が多く集まる場所では、スリや置き引きに注意するなど基本的な防犯意識を持つことが重要でした。特に Frankfurt Hauptbahnhof（フランクフルト中央駅）周辺は治安面で注意が必要な地域として知られており、夜間の単独行動を避けるなど、より慎重な行動が求められます。

通貨はユーロであり、クレジットカードは多くの場面で使用可能でしたが、市場など一部の

ローカルな場所では現金のみの場合もあり、現金の準備も必要でした。言語面では、多くの人が英語を理解できるため日常生活に大きな支障はありませんでしたが、基本的なドイツ語の挨拶を覚えておくことでコミュニケーションがより円滑になると感じました。一方で、医療現場ではドイツ語での対応が基本となる場面も多く、言語の壁を感じることもありました。私はドイツ語 B1 程度で、理解はある程度可能であったものの流暢な会話は困難でした。しかし、積極的にドイツ語でコミュニケーションを取るよう心掛けたことで、医師や看護師、患者の方々も私の理解度に合わせて簡単なドイツ語や英語を交えながら対応してくださる場面が多くありました。

8 反省点

本実習を通して、自身の医学的知識および臨床判断力において、実臨床への応用に課題があることを認識する場面が複数ありました。ドイツでは医学生や研修医に対しても積極的に意見を求められる場面が多く、限られた情報から迅速に鑑別診断を挙げ、必要な検査および治療方針を判断する能力の重要性を実感しました。講義や教科書で学習した内容であっても、実際の臨床現場において即座に活用することの難しさを感じました。

さらに、臨床現場で使用される医療英語やドイツ語の専門用語については十分に対応できない場面もあり、今後の課題であると感じました。特に患者の症状や診療内容に関する表現には専門的な語彙が多く、理解に苦慮することもありました。しかし、分からない点は積極的に質問しながらコミュニケーションを図ることで、医師や看護師の協力のもと診療に参加することができ、語学力だけでなく主体的に学ぶ姿勢の重要性を実感しました。

9 後輩へのメッセージ

ドイツ語の学習や現地事情について事前に調べていたこともあり、渡航前は大きな不安はなかったものの、実際には医療現場における言語の難しさを強く実感しました。

病院では分からないことがあれば遠慮せずに質問することを強くお勧めします。積極的に質問することで丁寧に指導していただけるだけでなく、その後も興味のある手術や手技、症例があれば声をかけていただける機会が増え、学びの幅を大きく広げることができました。また、病院外においても、「助けてほしい」と伝えると現地の方々は快く対応してくださり、日常生活の中でも多くの学びを得ることができました。ドイツの文化や歴史、価値観に直接触れることができる点も、この実習の大きな魅力の一つであると感じています。さらに、多様な移民背景を持つ方々と接する機会もあり、日本とは異なる社会環境を実感しました。加えて、電車を利用すればドイツ国内だけでなくヨーロッパの他都市へも比較的容易に移動できる点は大きな利点であると感じました。短時間で他国・他都市にアクセスできる環境は、日本では得がたい経験であり、生活面および文化的な学びの幅を広げる要素となっていました。

海外実習は言語や環境の面で不安を感じることもありますが、それ以上に多くの学びや気づきを得られる貴重な経験になります。ぜひ積極的に挑戦し、自身の視野や価値観を広げる機会にしていきたいと思います。

10 未来への飛躍基金への感謝

この度は、未来への飛躍基金より多大なるご支援を賜り、海外臨床実習という貴重な機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今回の実習では、日本とは異なる医療制度や医療文化の中で行われる診療を実際に見学・体験することができました。医療現場に身を置くことで、医療は医学的知識や技術のみで成り立つものではなく、社会制度や文化的背景、医療資源のあり方など様々な要素の影響を受けながら提供されていることを学びました。教科書や講義だけでは得ることのできない経験を通して、医療をより広い視点から捉える重要性を実感しました。

また、現地の医療者や医学生との交流を通じて、多様な価値観や考え方に触れることができました。特に、患者とのコミュニケーションの取り方やチーム医療の実践、医学生教育のあり方など、日本との共通点や相違点を学ぶことができたことは大変有意義でした。この経験は、今後医師として患者と向き合う上での姿勢や考え方に大きな影響を与えるものになったと感じています。

本実習で得た学びを今後の医学学習や臨床実習に活かし、より良い医療を提供できる医師となれるよう努力を重ねてまいります。そして、将来は今回の経験を社会や地域医療へ還元することで、ご支援いただいた皆様への恩返しができるよう精進してまいります。

末筆となりますが、このような貴重な学びの機会をご支援くださいました未来への飛躍基金ならびに関係者の皆様に、改めて心より御礼申し上げます。

